

アセットマネジメント部門

応募事例名

福島県におけるストックマネジメント計画策定支援の取り組み

応募団体名)福島県

応募事例の概要

市町村の悩み

新しく創設されたストックマネジメント支援制度を利用した改築等を行う方法がわからない。
⇒ストックマネジメントが何かわからない？
⇒施設の長寿命化をするにはどうしたらいいかわからない？ ⇒全国の悩みと同じ

福島県の対応

- ◆事務連絡を基に、ひな形を作成し配布
- ◆全市町村を対象に個別勉強会を実施
- ◆「ストックマネジメント実施方針」と、交付金制度(SM支援制度)で必要な「ストックマネジメント計画」とを区分し、違いを明確化。

●勉強会コンセプト

まずは実践

- ◆直営で作成
⇒予算をかけない！
- ◆県がマンツーマンで支援、一緒に作っていく。
⇒情報を一方通行にしない！
- ◆100点の計画書を目指さない。(PDCAサイクルでLevel UP!)
⇒実態に合った計画を策定！

●具体的実施内容

- ◆説明会ではなく、会場で実際に策定(作成)
- ◆県庁(アウェイ)ではなく、役場(ホーム)で行う
- ◆ひな形を自分たちが管理している施設に置き換えて実際に記入していく



●成果

- ◆H28年度末に全41市町村でSM計画の策定を完了！
- ◆直営作成により、「持続可能な下水道」へ向けて、やるべきことへの意識(危機感も含めた)が高まった。
- ◆現場で作成することで、地域の実情を見ることができ、実態に見合ったSM計画が策定できた。

実践、気づき、そして継続へ！

PRポイント

福島県下水道課では、今回の下水道ストックマネジメント支援制度の創設をチャンスと捉え、制度の早期適用を目指して、マンツーマン方式による個別勉強会を実施しました。

本県は人口30万人超の中核都市から数百人の村までが事業を実施しており、一律に同じ歩調で進めるのは難しい状態でありました。そのため、一方的な説明会ではなく、最後の1自治体までゴールにたどり着けるようラランナー方式による支援として、県が各市町村へ出向いて個別勉強会による策定の支援を実施しました。

これにより、全ての市町村で速やかに策定を終えることが出来ました。